

<認知症対応型共同生活介護用>
<小規模多機能型居宅介護用>

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

I. 理念に基づく運営	項目数	8
1. 理念の共有		1
2. 地域との支えあい		1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用		3
4. 理念を実践するための体制		2
5. 人材の育成と支援		0
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援		1
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応		0
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援		1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント		5
1. 一人ひとりの把握		1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し		1
3. 多機能性を活かした柔軟な支援		0
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働		3
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援		6
1. その人らしい暮らしの支援		4
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり		2
合計		20

事業所番号	1471902831
法人名	特定非営利活動法人 やすらぎ
事業所名	やすらぎの杜
訪問調査日	2016年10月28日
評価確定日	2016年1月30日
評価機関名	株式会社 R-CORPORATION

○項目番号について
 外部評価は20項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

○記入方法
 [取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
 [次ステップに向けて期待したい内容]
 次ステップに向けて期待したい内容について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

平成 28 年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1471902831	事業の開始年月日	平成17年10月1日	
		指定年月日		
法人名	特定非営利活動法人 やすらぎ			
事業所名	やすらぎの杜			
所在地	(237-0077) 神奈川県横須賀市浜見台2-14-1			
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護 <input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	登録定員	名	
		通い定員	名	
		宿泊定員	名	
		定員計	名	
		ユニット数	ユニット	
自己評価作成日	平成28年9月30日	評価結果 市町村受理日	平成29年2月6日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

やすらぎの杜は笑顔を大切にしています。ご利用者の笑顔の為にも、ご利用者をただ介護される側に置くのではなく、共に考え、共に語り合い、共に笑い合える関係でいたいと考えています。ご利用者の笑顔が、ご家族、職員へ伝播し、ホームを取り巻く全ての人に笑い声が出るようなホームにしたいと思っています。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 R-CORPORATION		
所在地	〒221-0835 横浜市神奈川区鶴屋町3-30-8 S Yビル2F		
訪問調査日	平成28年10月28日	評価機関 評価決定日	平成29年1月30日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

●この事業所は特定非営利活動法人やすらぎの経営です。同法人は地元有志によって設立されて11年が経ち、高齢者が心豊かに安心して過ごせる様な地域社会の実現に向け、関係機関と連携しながら、福祉事業を通してより充実したコミュニティーケアの実現を目指し取り組んでいます。ここ「やすらぎの杜」は京浜急行線追浜駅から徒歩約20分の浜見台住宅入り口となる坂道に面した傾斜部に立つ2階建ての建物です。建物の2階部にある玄関は道路に面しており玄関までの両脇にあるプランターには花が植えられ、静かな環境に合った癒しの工夫が施されています。

●事業所の運営目標、方針の取り組に「家庭的な環境の中で自信と安心感を持たせ、家庭の負担軽減と共に利用者の福祉増進を図る」を掲げています。利用者の身体的、精神的状況を把握し安全に配慮しながら、利用者との食事作りや、医療機関等とも連携を密にしつつ、且つ円滑な運営で身体拘束、行動制限は行はない支援を方針としています。

●地域との関わりについては、町内会に加入しているだけでなく、町内会としてやすらぎの杜を気にかけてくれていて、消防等の連携やボランティアでのミニバス提供のバックアップ等、協力してくれています。毎月、町内のコーラスボランティアが来訪し、楽しいひと時を過ごしています。また、学童保育や中学校の生徒も訪れ、子ども達との楽しい時間を過ごす機会も大切にし、双方が有意義なひと時を過ごしています。また、運営推進会議では地域との連携を深め、事業所の夏祭りやクリスマスに地域の方も参加していただいている他、コミュニティバスによる外出支援等も受けた交流が行われています。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	やすらぎの杜
ユニット名	1階 もみじ

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容		
I 理念に基づく運営							
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地元出身の有志が立ち上げたホームであり、地域への貢献を第一の目標としている。介護理念を作成し、職員への浸透をはかる為にも、施設内の目に留まりやすい場所に掲示し、徹底をしていると共に、本年2月、川崎でおきた高齢者虐待事件をふまえて、改めて職員全員にプリントを配布した。	地元出身の有志が立ち上げた事業所ということもあり、地域への貢献を第一として、介護理念は「笑顔のある生活を楽しむ」を掲げています。理念は事業所内に掲示し全職員で理解共有しながら、事業計画、ユニット毎の年間の目標等を作り、その達成度もユニット会議で振り返りながら日々理念と計画に沿った介護支援に努めています。	今後の継続		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の町内会に加入し、常に交流をはかっている。毎月、町内のコーラスボランティアが来て楽しいひと時を過ごしている。又、中学生が職場体験に訪れたりして交流をはかっている。夏祭りやクリスマス会には地域の方をご招待し、交流を深める事ができた。更に、地元のボランティア団体が運行するコミュニティバスと連携し、外出行事の移動支援、職員や家族の来訪に協力をしてもらっている。	町内会に加入し、地域のコーラスボランティアの来訪や、中学生の体験学習の受け入れ等も行われ常に交流を図っています。事業所主催の夏祭りやクリスマス会には地域の方を招待して交流を深めると共に、地域のボランティア団体が運行するコミュニティバスと連携して、外出行事の移動支援をお願いしたり、職員や家族の来訪にも協力をしていただいています。	今後の継続		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の中にある福祉施設という立場で、施設内の見学ができる機会を作ったり、町内会長をはじめ、地域の方や民生委員等、実際に介護に携わっている方や、相談を受ける方がやすらぎの杜の存在を知って頂けるようにしている。	/		/	
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	町内会長、民生委員、町内の方、包括支援センター、ご家族の代表等に参加頂き、ホームの状況をお知らせしながら意見を交換し、施設や介護の向上を目指している。年に数回、市の担当職員にも参加して頂き、アドバイスを受けている。災害時等の対応についても、話し合いをしている。	2ヶ月に1回自治会役員、民生委員、近所の方、地域包括支援センター職員、時には市の担当職員、利用者家族、ホーム長の参加で開催しています。会議では運営状況と今後の運営に関する思いや行事予定などを報告し、参加者から支援方法についての質問、意見、助言、提案等もいただきながら、話し合を行って結果を運営に反映させるようにしています。会議の内容については、議事録で職員に周知しています。	今後の継続		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の担当職員とは、日頃から極力連携をとるようにし、協力関係を築くように取り組んでいる。転倒事故等、特変があった時にも、市の担当課と連携を取り、対応するようにしている。運営推進会議には、年1回程度参加して頂き、ホームの状況をお伝えしている。	市の担当職員には運営推進会議にも参加をいただき、転倒事故など特変等用件に応じて報告し、不明点・疑問点を聞いたり相談をして支援に活かし事業所からは施設の様子や課題等についても伝えて連携を取るように努めています。	今後の継続		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	どんな行為が身体拘束に当たり、又、その弊害について掲示し、職員に徹底するようにしている。日中は、玄関も施錠することなく、見守りによってケアするよう努力している。やむを得ない利用者については、常に家族と連携をとり、職員のミーティングで、より良い方法を話し合う等にし、改善された場合は速やかに対応するようにしている。	身体拘束・虐待の行為と弊害を掲示している他、マニュアルや事例に基づいた職員への研修も行ない、日頃の言葉かけやケアについて全員で顧みて、禁止行為とそのデメリットを共有認識ながら身体拘束・虐待の廃止に繋げています。玄関の施錠については原則開錠とし、徘徊行動などの兆しが見られる場合は家族と連携を取りつつ職員のマンツーマンの見守りで対応しています。	今後の継続
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	人生の先輩であるご利用者に対し、尊敬の念を持つ事を心掛け、虐待という気持ち、行為が微塵も起きてはならない事を職員に徹底している。虐待に対する自己点検を行い、その後ミーティングにおいて確認、改善すべき点の話し合いをした。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	家庭的な環境のもとで、食事、入浴、排泄等の日常生活の支援を行う事がホームの役割である事を職員に徹底し、研修参加も積極的に促している。現在は、成年後見人を必要とする人はいないが、今後、必要がある場合には介護についてよく話し合いながら進めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書の条項が多い為、必ず数条ごとに質問、確認をとるようにしている。法制の改正により、変更となった項目もあり、ご利用者やご家族の不安や疑問が残る事のないよう努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会に来られた時や、年1回のユニットごとの家族会を通し、意見、要望を聞くようにしている。今年も夏祭りの際、1・2階合同の家族会を行い、ケアプランを通して話し合いを行った。外部評価アンケートは、より良い施設運営の貴重な意見として捉えている。	利用契約時に重要事項、運営規定に記された苦情相談窓口と、その対応の説明を行っています。また、面会時や催事時に行われるユニット合同の家族会議等でも話し合い、管理者をはじめ職員からの日常的な利用者の生活状況の報告でコミュニケーションを密にして、意見を伺うようにしています。外部評価のアンケートは、満足度調査の貴重な意見として捉えています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	より良い介護や運営を通して、ミーティング等で意見、提案を聞く機会を設けている。個人面談でも、随時意見を聞くようにしている。又、必要に応じて、理事長、事務長、管理者、フロアリーダー、ケアマネ等でリーダーミーティングを開催し、意見交換の機会を設けることにした。	事業所では毎月のユニット会議を通じて職員が日々の観察に基づく気づきや意見提案を自由に表出ができる様にしています。個人面談でも随時意見を聞く機会を設けていますが、管理者と職員は日頃から気軽に話せる関係も構築されており、職員からの意見は施設運営の貴重な意見として受け止めています。また、今回、必要に応じて理事長等を含むリーダーミーティングを開催するよう意見交換の機会が設けられました。	今後の継続
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	出勤日数や夜勤の状況を加味して、一時金の支給を行い、少しでもモチベーションが高まるようにしている。大半がパート職員だが年末の寸志、期末手当を支給し、やりがいを持てるよう対応している。職場の人間関係のより良い状況を目指し、改善を心掛けている。1昨年より、社員旅行を実施し、交流をふかめている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員のスキルアップの為、パート職員にも外部研修に参加してもらっている。また、研修で得た知識、経験を職場で反映してもらえよう働きかけている。経験の浅い職員に対しては、先輩職員が積極的に指導している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	市のグループホーム協議会を通じて、他事業所との交流ができています。又、職員も他の事業所との交流研修等に参加する事で、他のグループホームの様子を知ることができています。他のホームの良い所を吸収して、ご利用者に反映していけるよう指導している。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時に本人との面談を行い、不安に感じている事などをヒアリングしている。出来る限りご本人が納得して利用できるよう支援している。入居してからも、初めの数日間は極力声をかけるようにし、早くホームの生活に馴染んで頂けるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	一度の面談でなく、複数回面談しながらご家族の悩みや要望を出来るだけ汲み取っていきけるよう努め、更に電話等により話し合いを行うようにしている。又、行事等の写真をご家族に送付し、離れて暮らしていても最近の生活や、笑顔の表情をご覧になられて、安心感を持たれるご家族も多い。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホームとご本人のマッチングを重要視している。グループホームに入る事が、本当にご本人の為になるのか、在宅や特養等のサービスと比較した上で、ご家族とも話し合い、納得して頂いた上で入居を検討して頂けるように働きかけている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	お手伝いのできる方には、積極的に声をかけ、炊事、洗濯物たたみ、カレンダー作り等を職員と共に行って頂くようにしている。職員とご利用者が共につくるホームでありたいと思っている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	離れて暮らしているからこそ、家族の絆を強く持って頂きたく、自由に面会に来て頂いている。外食や外出も無理のない程度に行って頂く事を勧めている。通院の際にも、通院だけでなく食事やお茶等の時間を持って頂くよう働きかけている。夏祭り、運動会、クリスマス会等、ご家族にも声をかけ、一緒に過ごす時間を作っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地元にお住まいだった方も多く、町内や近隣に住んでいた方も訪問して下さっている。又、お墓参りや、実家に帰られるご利用者もいて、出来る限り、今まで縁のある人や場所との関係を保って頂けるよう働きかけている。	入居者がこれまでに大切にして来たなじみの人との関係が途切れない様に、近隣に住んでいた方の訪問等も随時受けています。また、家族の協力も得て、今までに縁のある人や場所との関係を継続出来るように働きかけています。希望する方には、手紙の宛名書きや投函などの支援も行ってなじみの関係が途切れないように支援しています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事やお茶の時間など、ご利用者同士が関わりを持てるよう席順を配慮している。自室に閉じこもらず、出来るだけ共有フロアで過ごして頂くよう働きかけている。大人数掛けのソファもあり、コミュニケーションをはかれるようにしている。カラオケも導入してより楽しんで頂いている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院治療が必要になった為、退所された方も多く、病院へのお見舞いを心掛けている。退所後もご家族が新しい入居希望者を紹介して下さいたり、信頼関係を保っている。		
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居時に本人やご家族から今までの暮らしぶり等を聞くようにしたり、時間を見つけて共有フロア等で寄りぞって、一人一人とお話する機会を作り、思いや希望、意向の把握を努めている。	入居時に本人や家族から今までの暮らしぶりなどを聞いたり、日頃接している中で話を聞きながら、今の思いを知るように努めています。言葉で思いを伝えるのが困難な方は、日頃の支援の中での「仕草や表情」から思いを押し量って支援計画書を作成し、本人本位を第一とした想いに適う支援に努めています。モニタリングでは、本人の思いに沿った支援が出来ているかの確認も行っています。	今後の継続
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の生活や趣味などを、出来る限り本人やご家族に聞き、職員が共有できるようミーティング等で話をするようにしている。入居前に依頼していた訪問リハビリを継続し、ホームに来て頂き、今までと同じサービスを利用している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人の一日の様子を把握する為、ケース記録を時系列順に記録している。お手伝いして下さった事や、排泄回数、睡眠時間、心身状態等の暮らしぶりを出るだけ詳細に記録し、状態把握に努めている。日勤と夜勤の交代時にも、申し送りをしっかりとるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族が来所された折には、出来る限り普段の様子を伝え、ご利用者を共に支えるという立場で話し合いを持つように努めている。医療面においては、施設とご家族、医師との連携をしっかりとるよう努めている。	利用当初は暫定計画で様子を見て、変化のある場合は都度の見直しを基準としています。概ね1年毎にカンファレンスを開き、職員の日々の観察を基に意見を述べ合って計画作成者を中心に、家族の意見も加味しながら検討し、その方の残存能力に見合った計画を作成しています。	今後の継続
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	全体記録とは別に、時系列順の個人記録をつけており、毎日の様子、排泄、服薬等を細かく記録している。月次会議の際には、それを基にカンファレンスを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	現在、ターミナルケアについては行っていないが、ご利用期間が長くなると高齢化も進み、緩やかに終末期に向かっているご利用者もおおり、当ホームで出来る事などを説明し、対応についてはご家族、医師と協議、同意した上で取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地元のボランティアセンターと連携をとり、地域のボランティアを紹介して頂いたりしている。コーラスのボランティアが毎月ホームを訪問して下さり、ご利用者の楽しみの一つになっている。又、年に数回、地域のNPO法人の協力で外出行事を行っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	往診医は地元の医師にお願いしているが、本人やご家族の希望で他の医師による往診も可能である。現在内科2医院、歯科2医院、精神科医院と連携している。緊急時には、かかりつけ医に連携をとる事により、総合病院への対応も速やかに行う事ができている。	協力医療機関として内科と歯科医は2医院ずつ、精神科は1医院と連携しながら、適切な医療が受けられるように支援しています。本人や家族の希望で以前からのかかりつけ医に通院している方もおり、入居時に決めていただくようにしています。協力医は定期的に往診に来ていただいておりますが、緊急時には紹介状を書いてもらう等、総合病院への対応もスムーズに行える体制を整えています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	現在、看護職員は配置していないが、必要に応じて訪問介護士の依頼も考えていく。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医師からの病状説明がある時には、ご家族に同意を得た上で同席させて頂き、状況を把握するよう努めている。又、病院とは常に連携をとり情報交換や相談に応じている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人の命はご本人だけのものと考えており、少しでも命を永らえて頂く事が介護士の努めであると考えている。重度化しても医療によって回復の可能性がある場合や、緩やかな終末期の利用者に対してはホームで出来る事、出来ない事をご家族に説明し、納得された上で支援に取り組んでいる。	重度化した場合の方針については入居契約時に重度化・終末期ケアについて、事業所の出来ること、出来ない事を家族・後見人に説明しています。現在事業所ではターミナルケアは行っていませんが、医師または看護師が終末期と判断した時点で、希望を伺い、家族・事業所責任者・医師との話し合いの場を設け、種々選択肢を示し最善の方法を見出し支援に取り組んでいます。	今後の継続
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署主催の救命救急講習に参加するようにして、応急手当や初期対応にあたるようにしている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に防災訓練を行い、災害時に備えている。平成22年1月に、市内のグループホームでは初めてスプリンクラーを設置、自動通報設備も設置し防災訓練時消防署の協力のもと実際に使用。地元町内会とも災害時の協力体制を築いている。新たに防災倉庫を設置し、飲料水、食料品、リハパン等の備蓄も行っている。停電時における発電機も用意した。	運営規定16条に利用者の災害防止に努め、災害時の通報及び連絡体制を整備、災害の予防措置並びに避難訓練を継続的に行う。と記されてホームでは所轄消防署の指導の下、避難誘導路・緊急連絡網の整備と共に避難訓練を年2回繰り返しています。非常用備蓄も飲料水・食料品・オムツなども確保して、設備ではスプリンクラー、火災自動通報装置、発電機等も設置され災害対策が講じられています。地域との協力体制も構築されています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者は人生の先輩であり、人生の達人である事を常に念頭において行動するようにしている。介護する側も学ばせて頂いているとの感謝の気持ちを忘れずに、一人一人の人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない対応を心掛けている。	利用者は人生の先輩であり、人生の達人である事を常に念頭に置いて行動するようにして「言葉遣いの乱れは不適切支援に繋がる」事を全職員が共有し、誇りやプライバシーを損ねる事の無い言葉遣いに対応を心がけています。呼称は「さん」付けを基本にしていますが、時には親しみをもて本人や家族の希望も取り入れた呼称で対応することもあります。	今後の継続
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	共有フロア等では、ご利用者に寄り添い、話しかける時間を出来るだけ作るようにし、意思を尊重するようにしている。意思表示が難しい方には聞き取る努力をしている。又、希望される方には自由にご家族へ電話をかけたりすることができるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床、就寝時間はある程度の目安は付けているが、朝ゆっくり起きたい方、夜ゆっくりテレビを見たい方もおり、一人一人のペースを尊重しながら生活できるよう支援している。昼間は殆どの方が共有フロアで過ごされているが、自室でくつろぎたい方もおり、自由に過ごして頂くようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	男性には出張の床屋さん、女性にはビューティーヘルパーさんを招き、整髪して頂いている。介護者の中に美容師がいて、たまに整髪してあげる事もある。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	共に食事を楽しめるよう、声をかけながら同じテーブルで食事をしている。調理や配膳、片付けができる方にはお手伝いして頂くよう働きかけている。又、外出行事の折にはレストラン等で外食し、楽しんで頂いている。正月、ひな祭り、土用の丑の日など、時節に合わせた食事を行ったり、誕生日食を取り入れている。	手伝いが出来る人には調理、配膳、食卓拭き、下膳、片付け等の手伝いをして頂ける様にして役割をこなす事での喜びや達成感を味わってもらうことで、能力の維持と食欲の維持に繋げています。食事時は皆が同じテーブルを囲んで食事を食べ、更に誕生日食、折々の季節食や時には外食も交えながら楽しめるよう工夫しながらの食事支援を行っています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	バイタル表に、食事、水分量を記録し、各ご利用者の摂取量を把握するよう努めている。特に、水分摂取に注意を要する方に対しては、摂取量、排泄量を細かくチェックしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、職員が口腔ケアのお手伝いをしている。歯槽膿漏の方などには、本人によるケアが終わった後、職員が仕上げのケアを行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄間隔を画一点に捉えず、一人一人のパターンを見極め、トイレ誘導もその人に合わせた声かけや援助をしながら、出来る限り自立を促している。	水分摂取量の記録と排泄チェック表にて、個々の排泄パターン把握に努め、声かけや見守りで自立に向けた排泄支援を行っています。失敗した際には他の人の目に触れない配慮の下に下着交換やシャワー等で清潔の維持に繋がっています。オムツの使用は経済的にも精神、衛生的にも負担がかかる為、オムツの無い生活を目指した支援に取り組んでいます。	今後の継続
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	出来るだけ食事で予防できるよう、バナナやイモ類の食物繊維を多く含む食材をメニューに取り入れている。長期の便秘に対しては医師の指導により、服薬等の便秘対策を行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴支援をしている	週3回の入浴が基本であるが、希望のある方には毎日入浴できるよう支援している。大まかな入浴時間はあるが、一人一人が入浴を楽しめるよう見守りながら、ゆっくりと入浴して頂くよう支援している。季節に合わせて、ゆず湯、菖蒲湯などとして、入浴を楽しんで頂けるようにしている。	週3回の入浴を基本としていますが、希望に応じて柔軟に対応した入浴支援が行われています。入浴は清潔保持のみならず、打ち身・あざ・湿疹などの発見に繋がることを踏まえて、無理強いはいませんが、誘い文句を変えたり職員を代えながら入浴を促しています。季節にはゆず湯、菖蒲湯なども取り入れ一緒に歌を歌ったりしながら楽しむように工夫しています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その人に合わせた起床、就寝の支援をしている。日常的に起床時間が遅い方もいるが、ご本人に合わせた食事ができるよう、無理のない時間に起床して頂くようにしている。又、日中は共有フロアにいる方が殆どであるが、読書が好きな方は居室で過ごされる方もいる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	誰がどんな薬を服用しているか把握する為、一覧ファイルを作り、支援している。状況の悪化や、改善が見られない場合には、医師に相談して対応してもらっている。薬の服用については、ご家族、医師と相談しながら決めるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	掃除や調理、洗濯たみなど、それぞれができる事をお手伝いして頂いている。ただ、利用者という立場ではなく、参加する楽しさや、役に立てる充実感を感じて頂けるよう支援している。フロアの飾り付けの作品を作って下さる方もいる。カラオケ、将棋、ぬり絵などを楽しまれる方もいる。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日には、近所を散歩するようにしている。散歩が無理な方には、玄関前で外気浴をして頂いている。年数回の外出行事には、地域のNPO法人が運行する「ハマちゃんバス」に依頼して、沢山のご利用者が外出できるようにしている。（お花見、こいのぼり見学、しょうぶ園、みかん狩り等）レストランでの外食は本当に喜んでいる。	晴天時には近くの散歩コースに出かけたり、庭先での日光浴等を行い、外気に触れるようにしています。また、地域のNPO法人が運行する「ハマちゃんバス」を依頼して、季節の外出行事（お花見、こいのぼり見学、しょうぶ園、みかん狩り）に行ったり、レストランで外食に行く等の外出支援を行っています。	今後の継続
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	近隣には商店等がなく、徒歩での買い物は不可能な為、普段は一人一人のお小遣いをお預かりしている。必要なものがある時には、職員が買い物をしてお渡ししている。通院や外出時には、希望があればお買い物もできるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	深夜、早朝以外は希望されれば自由に電話をかけてもらっている。手紙も自由にやりとりして頂いている。ホームに年賀状が届く方もいる。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有フロアに、レクでの制作物などを掲示している。又、行事の際の写真を貼りだしたりしている。季節を感じて頂けるような花を生けたり、正月の飾り、雛飾り、七夕、クリスマス飾りなどを行っている。テレビを見たり、カラオケを楽しんで頂いたりできるよう工夫し、殆どの方が日中は共有フロアで過ごされている。ベランダはナスやゴーヤ等を栽培し、成長の様子を楽しみにしている方もいる。	清掃が行き届いた室内は騒音や異臭も無く、適度な湿度・温度管理が職員によって行われ、リビングの壁面には皆で作成した季節感のある装飾が掲示されその他行事時の写真など全体バランスを考慮しながら飾っています。また、リビングにはテーブルやソファが置かれ、季節の花等も生けられて、季節感や安らぎと寛が感じられる工夫がされています。	今後の継続
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	出来るだけ居室に閉じこもりきりにならないよう、共有フロアには3～4人掛けのソファを設置しており、気の合う利用者同士で話をしたり、テレビを見たりして過ごせる空間になっている。カラオケや将棋を楽しむ方もいらっしゃる。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に、使い慣れた家具などを持ち込んで頂いている。殺風景な部屋にならないように、家族やペットの写真、レクで作成した物を貼ったりしている。敬老会、みかん狩り、運動会など、行事の折に写真を撮り居室に貼っている。	入居時に使い慣れた家具などを持ち込んでいただく事を話しています。なじみの雰囲気の中で生活出来るように、今まで大切にしてきた、鏡台、仏壇や思い出の写真などが飾られています。また、居室の入り口には手作りのボードの表札で自分の部屋を認識していただけるような工夫もされています。	今後の継続
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	少しでも自立を促していけるよう、居室やトイレに案内表示をつけている。居室の案内は、手作りのボードにお名前を書き、よりご自分のお部屋と感じて頂けるよう工夫している。又、出来る限りトイレでの排泄を継続していけるようサポートしている。		

目 標 達 成 計 画

事業所

やすらぎの杜（もみじ）

作成日

平成28年10月28日

〔目標達成計画〕

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	12	パート職員が多く、常勤職員の増加をはかると共に、定着化をはかる。	職員環境、条件の整備に努め、常勤職員の雇用、定着を目指す。	常勤できる職員を広く募集し、管理者や職員との話合い、対話を重ねて人間関係を築きながら定着化をはかる。	1年
2	2	より多方面からのボランティアの受け入れ。	利用者の趣味に合ったボランティアを招く。	地域の方や、職員の間関係、又、ボランティアセンターへはたらきかける。	1年

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。

事業所名	やすらぎの杜
ユニット名	2階 すみれ

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地元出身の有志が立ち上げたホームであり、地域への貢献を第一の目標としている。介護理念を作成し、職員への浸透をはかる為にも、施設内の目に留まりやすい場所に掲示し、徹底をしていると共に、本年2月、川崎でおきた高齢者虐待事件をふまえて、改めて職員全員にプリントを配布した。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の町内会に加入し、常に交流をはかっている。毎月、町内のコーラスボランティアが来て楽しいひと時を過ごしている。又、中学生が職場体験に訪れたりして交流をはかっている。夏祭りやクリスマス会には地域の方をご招待し、交流を深める事ができた。更に、地元のボランティア団体が運行するコミュニティバスと連携し、外出行事の移動支援、職員や家族の来訪に協力をしてもらっている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の中にある福祉施設という立場で、施設内の見学ができる機会を作ったり、町内会長をはじめ、地域の方や民生委員等、実際に介護に携わっている方や、相談を受ける方がやすらぎの杜の存在を知って頂けるようにしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	町内会長、民生委員、町内の方、包括支援センター、ご家族の代表等に参加頂き、ホームの状況をお知らせしながら意見を交換し、施設や介護の向上を目指している。年に数回、市の担当職員にも参加して頂き、アドバイスを受けている。災害時等の対応についても、話し合いをしている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の担当職員とは、日頃から極力連携をとるようにし、協力関係を築くように取り組んでいる。転倒事故等、特変があった時にも、市の担当課と連携をとり、対応するようにしている。運営推進会議には、年1回程度参加して頂き、ホームの状況をお伝えしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	どんな行為が身体拘束に当たり、又、その弊害について掲示し、職員に徹底するようにしている。日中は、玄関も施錠することなく、見守りによってケアするよう努力している。やむを得ない利用者については、常に家族と連携をとり、職員のミーティングで、より良い方法を話し合う等にし、改善された場合は速やかに対応するようにしている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	人生の先輩であるご利用者に対し、尊敬の念を持つ事を心掛け、虐待という気持ち、行為が微塵も起きてはならない事を職員に徹底している。虐待に対する自己点検を行い、その後ミーティングにおいて確認、改善すべき点の話し合いをした。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	家庭的な環境のもとで、食事、入浴、排泄等の日常生活の支援を行う事がホームの役割である事を職員に徹底し、研修参加も積極的に促している。現在は、成年後見人を必要とする人はいないが、今後、必要性がある場合には介護についてよく話し合いながら進めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書の条項が多い為、必ず数条ごとに質問、確認をとるようにしている。法制の改正により、変更となった項目もあり、ご利用者やご家族の不安や疑問が残る事のないよう努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会に来られた時や、年1回のユニットごとの家族会を通し、意見、要望を聞くようにしている。今年も夏祭りの際、1・2階合同の家族会を行い、ケアプランを通して話し合いを行った。外部評価アンケートは、より良い施設運営の貴重な意見として捉えている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	より良い介護や運営を通して、ミーティング等で意見、提案を聞く機会を設けている。個人面談でも、随時意見を聞くようにしている。又、必要に応じて、理事長、事務長、管理者、フロアリーダー、ケアマネ等でリーダーミーティングを開催し、意見交換の機会を設けることにした。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	出勤日数や夜勤の状況を加味して、一時金の支給を行い、少しでもモチベーションが高まるようにしている。大半がパート職員だが年末の寸志、期末手当を支給し、やりがいを持てるよう対応している。職場の人間関係のより良い状況を目指し、改善を心掛けている。1昨年より、社員旅行を実施し、交流をふかめている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員のスキルアップの為、パート職員にも外部研修に参加してもらっている。また、研修で得た知識、経験を職場で反映してもらえるよう働きかけている。経験の浅い職員に対しては、先輩職員が積極的に指導している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	市のグループホーム協議会を通じて、他事業所との交流ができている。又、職員も他の事業所との交流研修等に参加する事で、他のグループホームの様子を知ることができている。他のホームの良い所を吸収して、ご利用者に反映していけるよう指導している。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時に本人との面談を行い、不安に感じている事などをヒアリングしている。出来る限りご本人が納得して利用できるよう支援している。入居してからも、初めの数日間は極力声をかけるようにし、早くホームの生活に馴染んで頂けるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	一度の面談でなく、複数回面談しながらご家族の悩みや要望を出来るだけ汲み取っていきけるよう努め、更に電話等により話し合いを行うようにしている。又、行事等の写真をご家族に送付し、離れて暮らしていても最近の生活や、笑顔の表情をご覧になられて、安心感を持たれるご家族も多い。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホームとご本人のマッチングを重要視している。グループホームに入る事が、本当にご本人の為になるのか、在宅や特養等のサービスと比較した上で、ご家族とも話し合い、納得して頂いた上で入居を検討して頂けるように働きかけている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	お手伝いのできる方には、積極的に声をかけ、炊事、洗濯物たたみ、カレンダー作り等を職員と共に行って頂くようにしている。職員とご利用者が共につくるホームでありたいと思っている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	離れて暮らしているからこそ、家族の絆を強く持って頂きたく、自由に面会に来て頂いている。外食や外出も無理のない程度に行って頂く事を勧めている。通院の際にも、通院だけでなく食事やお茶等の時間を持って頂くよう働きかけている。夏祭り、運動会、クリスマス会等、ご家族にも声をかけ、一緒に過ごす時間を作っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地元にお住まいだった方も多く、町内や近隣に住んでいた方も訪問して下さっている。又、お墓参りや、実家に帰られるご利用者もいて、出来る限り、今まで縁のある人や場所との関係を保って頂けるよう働きかけている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事やお茶の時間など、ご利用者同士が関わりを持てるよう席順を配慮している。自室に閉じこもらず、出来るだけ共有フロアで過ごすよう働きかけている。大人数掛けのソファもあり、コミュニケーションをはかれるようにしている。カラオケも導入してより楽しんで頂いている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院治療が必要になった為、退所された方も多く、病院へのお見舞いを心掛けている。退所後もご家族が新しい入居希望者を紹介して下さい、信頼関係を保っている。		
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居時に本人やご家族から今までの暮らしぶり等を聞くようにしたり、時間を見つけて共有フロア等で寄りぞって、一人一人とお話する機会を作り、思いや希望、意向の把握を努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の生活や趣味などを、出来る限り本人やご家族に聞き、職員が共有できるようミーティング等で話をするようにしている。入居前に依頼していた訪問リハビリを継続し、ホームに来て頂き、今までと同じサービスを利用している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人の一日の様子を把握する為、ケース記録を時系列順に記録している。お手伝いして下さった事や、排泄回数、睡眠時間、心身状態等の暮らしぶりを出来るだけ詳細に記録し、状態把握に努めている。日勤と夜勤の交代時にも、申し送りをしっかりとるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族が来所された折には、出来る限り普段の様子を伝え、ご利用者を共に支えるという立場で話し合いを持つように努めている。医療面においては、施設とご家族、医師との連携をしっかりとるよう努めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	全体記録とは別に、時系列順の個人記録をつけており、毎日の様子、排泄、服薬等を細かく記録している。月次会議の際には、それを基にカンファレンスを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	現在、ターミナルケアについては行っていないが、ご利用期間が長くなると高齢化も進み、緩やかに終末期に向かっているご利用者もおり、当ホームで出来る事などを説明し、対応についてはご家族、医師と協議、同意した上で取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地元のボランティアセンターと連携をとり、地域のボランティアを紹介して頂いたりしている。コーラスのボランティアが毎月ホームを訪問して下さり、ご利用者の楽しみの一つになっている。又、年に数回、地域のNPO法人の協力で外出行事を行っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	往診医は地元の医師にお願いしているが、本人やご家族の希望で他の医師による往診も可能である。現在内科2医院、歯科2医院、精神科医院と連携している。緊急時には、かかりつけ医に連携をとる事により、総合病院への対応も速やかに行う事ができている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	現在、看護職員は配置していないが、必要に応じて訪問介護士の依頼も考えていく。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医師からの病状説明がある時には、ご家族に同意を得た上で同席させて頂き、状況を把握するよう努めている。又、病院とは常に連携をとり情報交換や相談に応じている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人の命はご本人だけのものと考えており、少しでも命を永らえて頂く事が介護士の努めであると考えている。重度化しても医療によって回復の可能性がある場合や、緩やかな終末期のご利用者に対してはホームで出来る事、出来ない事をご家族に説明し、納得された上で支援に取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署主催の救命救急講習に参加するようにして、応急手当や初期対応にあたるようにしている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に防災訓練を行い、災害時に備えている。平成22年1月に、市内のグループホームでは初めてスプリンクラーを設置、自動通報設備も設置し防災訓練時消防署の協力のもと実際に使用。地元町内会とも災害時の協力体制を築いている。新たに防災倉庫を設置し、飲料水、食料品、リハパン等の備蓄も行っている。停電時における発電機も用意した。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者は人生の先輩であり、人生の達人である事を常に念頭において行動するようにしている。介護する側も学ばせて頂いているとの感謝の気持ちを忘れずに、一人一人の人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない対応を心掛けている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	共有フロア等では、ご利用者に寄り添い、話しかける時間を出来るだけ作るようにし、意思を尊重するようにしている。意思表示が難しい方には聞き取る努力をしている。又、希望される方には自由にご家族へ電話をかけたりすることができるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床、就寝時間はある程度の目安は付けているが、朝ゆっくり起きたい方、夜ゆっくりテレビを見たい方もおり、一人一人のペースを尊重しながら生活できるよう支援している。昼間は殆どの方が共有フロアで過ごされているが、自室でくつろぎたい方もおり、自由に過ごして頂くようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	男性には出張の床屋さん、女性にはビューティーヘルパーさんを招き、整髪して頂いている。介護者の中に美容師がいて、たまに整髪してあげる事もある。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	共に食事を楽しめるよう、声をかけながら同じテーブルで食事をしている。調理や配膳、片付けができる方にはお手伝いして頂くよう働きかけている。又、外出行事の折にはレストラン等で外食し、楽しんで頂いている。正月、ひな祭り、土用の丑の日など、時節に合わせた食事を行ったり、誕生日食を取り入れている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	バイタル表に、食事、水分量を記録し、各ご利用者の摂取量を把握するよう努めている。特に、水分摂取に注意を要する方に対しては、摂取量、排泄量を細かくチェックしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、職員が口腔ケアのお手伝いをしている。歯槽膿漏の方などには、本人によるケアが終わった後、職員が仕上げのケアを行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄間隔を画一点に捉えず、一人一人のパターンを見極め、トイレ誘導もその人に合わせた声かけや援助をしながら、出来る限り自立を促している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	出来るだけ食事で予防できるよう、バナナやイモ類の食物繊維を多く含む食材をメニューに取り入れている。長期の便秘に対しては医師の指導により、服薬等の便秘対策を行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴支援をしている	週3回の入浴が基本であるが、希望のある方には毎日入浴できるよう支援している。大まかな入浴時間はあるが、一人一人が入浴を楽しめるよう見守りながら、ゆっくりと入浴して頂くよう支援している。季節に合わせ、ゆず湯、菖蒲湯などとして、入浴を楽しんで頂けるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その人に合わせた起床、就寝の支援をしている。日常的に起床時間が遅い方もいるが、ご本人に合わせた食事ができるよう、無理のない時間に起床して頂くようにしている。又、日中は共有フロアーにいる方が殆どであるが、読書が好きな方は居室で過ごされる方もいる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	誰がどんな薬を服用しているか把握する為、一覧ファイルを作り、支援している。状況の悪化や、改善が見られない場合には、医師に相談して対応してもらっている。薬の服用については、ご家族、医師と相談しながら決めるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	掃除や調理、洗濯たたみなど、それぞれができる事をお手伝いして頂いている。ただ、利用者という立場ではなく、参加する楽しさや、役に立てる充実感を感じて頂けるよう支援している。フロアの飾り付けの作品を作って下さる方もいる。カラオケ、将棋、ぬり絵などを楽しまれる方もいる。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日には、近所を散歩するようにしている。散歩が無理な方には、玄関前で外気浴をして頂いている。年数回の外出行事には、地域のNPO法人が運行する「ハマちゃんバス」に依頼して、沢山のご利用者が外出できるようにしている。（お花見、こいのぼり見学、しょうぶ園、みかん狩り等）レストランでの外食は本当に喜んでいる。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	近隣には商店等がなく、徒歩での買い物は不可能な為、普段は一人一人のお小遣いをお預かりしている。必要なものがある時には、職員が買い物をしてお渡ししている。通院や外出時には、希望があればお買い物もできるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	深夜、早朝以外は希望されれば自由に電話をかけてもらっている。手紙も自由にやりとりして頂いている。ホームに年賀状が届く方もいる。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有フロアに、レクでの制作物などを掲示している。又、行事の際の写真を貼りだしたりしている。季節を感じて頂けるような花を生けたり、正月の飾り、雛飾り、七夕、クリスマス飾りなどを行っている。テレビを見たり、カラオケを楽しんで頂いたりできるよう工夫し、殆どの方が日中は共有フロアで過ごされている。ベランダはナスやゴーヤ等を栽培し、成長の様子を楽しみにしている方もいる		
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	出来るだけ居室に閉じこもりきりにならないよう、共有フロアには3～4人掛けのソファを設置しており、気の合う利用者同士で話をしたり、テレビを見たりして過ごせる空間になっている。カラオケや将棋を楽しむ方もいらっしゃる。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に、使い慣れた家具などを持ち込んで頂いている。殺風景な部屋にならないように、家族やペットの写真、レクで作成した物を貼ったりしている。敬老会、みかん狩り、運動会など、行事の折に写真を撮り居室に貼っている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	少しでも自立を促していけるよう、居室やトイレに案内表示をつけている。居室の案内は、手作りのボードにお名前を書き、よりご自分のお部屋と感じて頂けるよう工夫している。又、出来る限りトイレでの排泄を継続していけるようサポートしている。		

目 標 達 成 計 画

事業所

やすらぎの杜 (すみれ)

作成日

平成28年10月28日

〔目標達成計画〕

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	12	パート職員が多く、常勤職員の増加をはかると共に、定着化をはかる。	職員環境、条件の整備に努め、常勤職員の雇用、定着を目指す。	常勤できる職員を広く募集し、管理者や職員との話合い、対話を重ねて人間関係を築きながら定着化をはかる。	1年
2	2	より多方面からのボランティアの受け入れ。	利用者の趣味に合ったボランティアを招く。	地域の方や、職員の間関係、又、ボランティアセンターへはたらきかける。	1年

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。